

PRESS RELEASE

2024年5月7日
株式会社 ispace**ispace、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)の月面ミッションに協力
人類の言語と文化遺産を記録させたメモリーディスクを月面に輸送**

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）は、国際連合教育科学文化機関（以下 ユネスコ）の、人類の言語と文化遺産を保護するための月面ミッションに協力することを発表いたしましたので、お知らせいたします。



（左）左から Interim President and CEO ICANN の Sally Costerton 氏、Assistant Director-General for Communication and Information UNESCO の Tawfik Jelassi 氏、および ispace EU CEO Julien-Alexandre Lamamy

（右） ispace EU CEO Julien-Alexandre Lamamy が登壇する様子

2024年5月6日（月）にフランス、パリのユネスコ本部で開催された Information Meeting on Universal Acceptance において、ユネスコは、米国カリフォルニア州に拠点を置く企業と共同で開発した「メモリーディスク」に人類の言語と文化遺産を記録させ、月面に輸送する計画を発表しました。同イベントには ispace EUROPE S.A.（以下 ispace EU）CEO の Julien-Alexandre Lamamy も参加しました。

ユネスコは、今後地球上で予想される深刻な気候変動や自然災害などあらゆる危機に備えて、人類の文化を象徴する言語の多様性を維持することの重要性を掲げており、そのための施策の1つとして、今回、月面へのメモリーディスクの輸送を考えています。このメモリーディスクには、ユネスコ憲章の前文に記される、世界の団結と言語の多様性、文化を保護することの重要性を示す文章が、275の言語に翻訳されて記録されます。

ispace グループは、日・米・欧の3法人で世界30カ国の国籍を有する従業員が、それぞれの国や地域の文化や多様性を活かしながら各国の宇宙政策と宇宙産業の促進に貢献しつつ、1つの統合的なグローバル企業として当社ビジョンであるシスルナ経済圏（cislunar: 地球と月の間の空間）を確立することを目指しています。ispace はユネスコの主張する、人類の言語の多様性維持の必要性という理念に共感し、このメモリーディスクを、2024年冬に民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」ミッション2で打ち上げを予定している月着陸船「RESILIENCE」に搭載、月面へ輸送することで、ユネスコの月面ミッションへの協力を表明いたします。

■ ispace EUROPE EU CEO Julien-Alexandre Lamamy のコメント

「この度、ユネスコが計画する、人類の言語の多様性維持のため月を活用するというミッションにおいて、ispace が月面への輸送協力を行うことが、世界各国の政府関係者が集まる場で発表出来たことを非常にうれしく、光栄に思います。この月面ミッションを成功させるためにも、ispace は民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」ミッション2の打ち上げに向けて、引き続き開発に尽力してまいります。

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの3拠点で活動し、現在約300名のスタッフが在籍。2010年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った5チームのうちの1チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022年12月11日にはSpaceXのFalcon 9を使用し、同社初となるミッション1のランダーの打ち上げを完了。続く2024年冬ⁱⁱにミッション2の打ち上げを、2026年ⁱⁱⁱにミッション3、2027年ⁱⁱⁱにミッション6の打ち上げを行う予定。

ミッション1の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション1マイルストーンの10段階の内Success8まで成功を収めることができ、Success9中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション1で得られたデータやノウハウは、後続するミッション2へフィードバックされる予定。更にミッション3では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によってNASAが行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

■ HAKUTO-R (<https://ispace-inc.com/jpn/m1/>)について

HAKUTO-R は、ispace が行うミッション1およびミッション2を総称する、民間月面探査プログラム。独自のランダー（月着陸船）とローバー（月面探査車）を開発して、月面着陸と月面探査の2回のミッションを行う。SpaceXのFalcon 9を使用し、2022年にミッション1（月面着陸ミッション）のランダーの打ち上げを完了。2024年冬^{ix}にミッション2（月面探査ミッション）の打ち上げを行う予定。

HAKUTO-Rのコーポレートパートナーには、日本航空株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、日本特殊陶業株式会社、シチズン時計株式会社、スズキ株式会社、高砂熱学工業株式会社、株式会社三井住友銀行、SMBC日興証券株式会社、S k y株式会社、Epiroc ABが参加している。

-
- i 2024年4月時点の想定
 - ii 2024年4月時点の想定
 - iii 2024年4月時点の想定